

大切にしたいこと

将来像

基本方針

具体施策

「三陸物」発祥の地 「ゆたかな」海と「ゆっくり」「ゆったり」したふるさと

「心地よい海」「山海の幸」「奥行きある文化」が楽しめるまち 大船渡

1. 海と山の食文化に根ざした「食」の魅力創造

大船渡の海や山の恵み、岩手内陸との交易から発達した食文化を地域資源として捉え直し、多彩な海と山の味を活かしたご当地料理を磨き上げるとともに、地元に来ないと食べることができない魚食グルメの開発を行い、これらを味わう機会を増やすことにより、海と山の食文化に根ざした魅力創造を行う。

2. ゆたかな海と山、人々とのふれあいで観光客をひきつける観光資源の開発

既存の観光資源と復興を契機として新たに創出される観光資源を活かして、「岩手に来たら一度は寄ってみたい」「三陸沿岸に来たらぜひ足を運びたい」と思われる観光地を目指し、観光客をひきつける観光資源の開発に取り組む。また、ゆっくり滞在できる観光地を目指し、浜の人々とのふれあい・交流機会を創出する。

3. 市内観光資源の魅力あるネットワーク化の推進

大船渡市内の「食」と観光資源を大船渡、気仙地域のストーリーでつなぐことにより、魅力あふれる観光ネットワークを構築し、周遊しやすい環境を形成する。

4. 三陸沿岸、県南エリアなどの広域と連携した大船渡の魅力と誘客機会の向上

気仙地域はもとより、平泉、三陸沿岸と連携することにより、大船渡の素朴な魅力を際立たせて、誘客と立ち寄り率の向上を目指す。

5. 大船渡観光PRの推進と物産販売を通じた誘客の促進

物産展や都市間交流および各種キャンペーン活動等により、大船渡の魅力を多面的に発信するとともに、実際に大船渡に来た観光客に対して、大船渡の魅力を十分に伝えることができる取組を推進する。

6. 古来からの風習を大切にしたいおもてなしの心の育成と実践

古来からの気仙地域の良き風習である「おちつき」の精神を現代に活かして、おもてなしの心を育成するとともに、実践できる人々を増やすことを目指す。

- (1) 大船渡の郷土食の掘り起こしと魅力の再構築
- (2) 多彩な海と山の味を活かしたご当地料理の磨き上げと魚食グルメの開発
- (3) 郷土食・ご当地料理・魚食グルメ等の魅力を味わう機会の創出

- (1) 三陸を感じる漁業体験メニューと沿岸農業体験メニューの再興と充実
- (2) 三陸復興国立公園を代表する景勝地にふさわしい基石海岸の魅力づくり
- (3) 穏やかな海・五葉山とその周辺の間々・北限の椿等の魅力の再生・向上
- (4) 震災遺構の活用と震災からの学びの伝承
- (5) ふるさとの誇りを市民と観光客が共有する郷土芸能の活用検討
- (6) 市民交流に結びつく地場産業と連携した観光資源の形成
- (7) 「みなとまち」と「宿場町」の暮らしが垣間見える「まちなか観光」の推進
- (8) リアス式海岸の魅力を満喫する大型客船へのおもてなし

- (1) 雄大な景色と三陸文化の隠れた見どころを周遊するきっかけづくり
- (2) 大船渡観光が楽しめるサービスメニューの研究
- (3) 「遠い」というイメージを改善し、観光交流を促進する交通アクセスの整備
- (4) 周遊ルートや視点場等の魅力を伝えるサイン整備
- (5) みちのく潮風トレイルの取組を活かした地域内連携づくり

- (1) 気仙地域自治体等との連携による魅力の再発見
- (2) 三陸復興国立公園におけるソフト展開との連携
- (3) 三陸ジオパークの取組をきっかけとした知名度向上
- (4) 世界文化遺産「平泉」との連携による大船渡の独自性の再構築
- (5) フィルムコミッションの展開による岩手内陸の観光地と連携した大船渡のイメージ向上

- (1) 大船渡を代表する風景の再点検による新たな魅力の発信
- (2) 三陸・大船渡の顔となる公式ホームページの拡充及び観光案内マップの充実
- (3) 既存イベントと復興関連イベントの戦略的な共同展開による誘客力の向上
- (4) 海の幸と三陸鉄道（南リアス線）の知名度を活かしたキャンペーンの展開
- (5) 首都圏への特産品の販路拡大と「食」を通じた大船渡の魅力の発信
- (6) 銀河連邦や被災地支援自治体との都市間交流による大船渡の魅力の伝達
- (7) イベントやモニターツアー等を活用した観光客の意識調査

- (1) おもてなしができる市民・事業者の意識啓発と実践の促進
- (2) 大船渡の観光振興を担う人材の育成
- (3) 復興支援者との交流の継続による大船渡ファンの獲得
- (4) 外国人観光客の来訪に備えた受入れ態勢の準備